

松岡英子* 片山律子* ○榎原伊奈美**

(*信州大 , **飯田女短大)

【目的】本報は有職・既婚女性の基本属性および世帯の特性と心理的ストレス反応との関係を検討したうえで、家庭生活と職業生活が心理的ストレス反応に与えている影響を明らかにすることを目的とする。

【方法】第1報に示した対象者のうち、有職者980名のデータを用いて分析した。基本属性および世帯の特性とストレス反応との関係を検討し、「家庭生活」と「職業生活」に関する諸変数（家庭および職場におけるストレスと想定される出来事、夫から妻への情緒的サポート・職場の人からの情緒的サポート、家庭および職場の満足度、2つの生活場面に応じた役割アイデンティティ）と心理的ストレス反応との関係を分析・検討した。

【結果】対象者の就労形態は常勤26.6%、パート・臨時47.6%、自営・自由業24.9%であり、職業は事務・販売が47.0%で最も多かった。ライフステージは子どもなし8.2%、子ども6歳以下18.0%、子ども7~12歳21.2%、子ども13歳以上50.3%であった。ストレスと想定される出来事のうち、家庭生活では「家事や子育てで時間に追われたこと」、職業生活では「仕事が多くて時間に追われたこと」への回答が多く、共働き女性が時間に追われている様子が示された。基本属性および世帯の特性の中で、妻の心理的ストレス反応と関係があったのは世帯収入、妻の職業、夫の学歴であった。分析に用いた家庭生活と職業生活に関する諸変数は妻の心理的ストレス反応と関係がみられたが、家庭生活に関する変数により高い相関が示されていることから、有職女性の心理的安定にとって職場より家庭の影響が強いことが推察される。